

守谷市教育委員会点検評価意見

点検評価委員 山下正路

1 教育委員会

- ・ 守谷市の教育目標を、「新しい時代をたくましく生きぬく人づくりを目指す」と掲げ、グランドデザインでは「世界で輝く人づくり」を表題にして、5つの教育プラン・ステップアップ・ハートフォーヒューマン・ヘルス&フィジカル・ニュージェネレーション・パートナーシップと、全ての子どもたちに身に付けさせる最も必要重要な内容を明確に提示してある。

さらに、「守谷市の特色ある取組」として7つの項目を紹介しているが、この内容も守谷市の教育行政が教育環境整備を全力で推進し、子どものことを大事にした人づくりに邁進している様子がうかがわれる。

そして、一貫教育として「きらめきプロジェクト」の目標を5つの方針で提示している。未来を担っていき、将来の夢に向かって努力する児童生徒を育成するための内容が具体的に明示されている。多くの子どもたちが、将来10・20年後にこの取組の成果が表れ、世界で輝く人となることを確信している。

- ・ 全国的に教育に関する諸問題が多く、社会を取り巻く多くの方から多種の評価を受けることが多かった今日、守谷市教育委員会では、定例の教育委員会を始め臨時・協議会と37件の審議が実施されている。市内の小中学校及び事務局各課の状況報告を基に事務局と連携して真剣な議論によって政策を進められている。定例教育委員会の他にも、学校現場に視察に行き授業参観や行事に参加されている。更に数多くの研修会に参加して、他の市町村の情報収集をして本市の教育発展に努めている。このような取組が守谷市の総体的な教育力向上の基盤となっている。

2 学校教育・指導室事業

- ・ 地球温暖化現象の時代になり、多方面での対応が必須になった。熱中症の課題や猛暑で気温の向上、放射線の問題等があり、平成24・25年度の空調設備(エアコン)で教育環境整備を図り、子どもたちが快適感の中で学習を進めていけるのは、授業の集中力の高まりにも大きく関連してくる。

また、現代の家庭のトイレは、多くが洋式に替わってきており、そこで育っている子どもの多くは、学校のトイレには不快感を持っている。小学校6校、中学校3校にトイレ洋式化で快適な教育環境づくりがなされ、安心ですばらしい学校生活を過ごすことができる。

- ・ 安心・安全の環境整備も全学校の耐震化100%となり、強度の地震の際にも安心・安全な環境になった。危機管理体制も9月1日の防災訓練に合わせて、小中学校児童生徒引渡し訓練の実施や、各学校に青色パトロールカーの設置や防犯カメラで、校内外の管理体制を強化している。
- ・ ステップアッププラン(確かな学力の向上)では、各学校で校内の研修会に工夫を凝

らし進められている。それぞれの実態に応じた課題を追求し、数値目標を掲げ、日々努力されている。多忙感が重い学校現状であるが、子どもの学力の向上を図る施策がなされ、授業の重要性を認識した分かる授業・楽しい授業を展開している。教師の指導力の向上で良い授業がされていると思われる。学習課題をしっかりと把握して、「やってみたい・できるようになりたい・わかりたい」という気持ちにさせる授業が数多く行われている。

特筆すべきことは、「茨城県学力診断テスト」の結果から、守谷市内の中学校では県平均を大きく上回り、県内でもトップクラスに位置していると思われる。このように中学校での学力が安定していることは、小学校からの学力が身に付いていたと思われる。学習習慣の確立や家庭学習の定着は、小学校のころから計画的・継続的に粘り強く行っている結果である。

今年度は、一貫教育「きらめきプロジェクト」家庭学習のてびきを、小学校・中学校用と作成され、保護者と連携を図り、家庭学習の重要性や効果を問いかけ学力向上を更に図ろうとするすばらしい取組がある。

全国的に二極化現象に苦慮している学校が多く見られ、学力・運動等に数値指標として現れている。その学力支援の施策として、守谷市では学習支援ティーチャーを小学校1年生に限り児童26人以上に拡大し、小学校に27名、中学校に8名、更に社会人TTを3名配置して、二極化現象を解消するために、より多くの指導者で手厚い指導をして、生活習慣や学習習慣をきちんと低学年から身に付けさせる配慮がなされている。さらに、少人数加配教員(小学校6名、中学校8名)を積極的に活用し、習熟度や課題別に発展・補充の学習を実施して、個に応じた指導がより効果的に行われ、二極化現象の解消につながっている。

- ・ ハートフォーヒューマンプラン（豊かな心をはぐくむ教育の推進）では、小学校では道德教育の推進に力を入れているのが目立ち、高いレベルの授業を目指して研修を積んだり、条件のいい時間に授業を設定したり、友達の良いところをたくさん見つけ、自分の良さを発見させようとして人間関係の構築を図っている。

また、教室の一角には道德コーナーなどを設置し、普段・日常の生活から取り組んでいる。中学校では、基本的な生活の習慣の確立を図るためにいろいろな施策を各学校で行っている。全職員による挨拶・服装・遅刻・休み時間の巡視等を積極的に行っている。

さらに、教師だけでなく、生徒会の活動を中心とした活動や小学校と連携した挨拶運動など、そして、生徒会による「いじめ防止フォーラム」の開催など、教師だけでなく、生徒と一体になった活動が多く見られ、「いじめの防止」や好ましい人間づくりの基盤になっている。

個々に悩みを持ち、友達関係がうまくいなくて学校に行くのをいやがる子どもは意外と多く、去年の小学校1232件、中学校479件、適応指導教室で436件、市教育相談室で591件と相談活動が実績として行われている。学校教育では目立つ分野ではないが、悩みをもった子や集団の中でうまく溶け込めない子にとっては、非常に大事なところである。スクールカウンセラー、心の教室相談員、教育相談員、適

応指導教室指導員、家庭児童相談員等の充実を図って、一人でも多くの子どもが学校を好きになって、友達と遊び勉強することが楽しいと思う子どもになって欲しい。

- ・ヘルス&フィジカルプラン（健康と体力をはぐくむ教育の推進）では、総体的に体力向上に視点をおいて努力している。体育の授業では、体力向上の充実を図る工夫が見られ、持久走や縄跳びタイム等の特設し、体力向上に向けた取組が盛んに行われている。しかし、限られた時間では、なかなか思ったほどの成果が出てないようである。体力テストの結果を分析して取り組んでいる学校も多く、継続して頑張ってもらいたい。しかし、この課題は、学校の施策だけではなかなか解消しにくい問題だと思う。近ごろは、「空間・仲間・時間」がない子どもの環境だと言われており、家の周りに遊ぶ場所がない、公園では野球禁止・サッカー禁止の立札も少なくない。学校では仲間がいるが、家に帰ってからの遊び仲間が少ない。今の子どもは、習いごとや塾が盛んで遊ぶ時間が少ない。近年は、学校を離れたところで仲間と遊びを通して体力向上につながる機会が少なくなっているのである。中学校では、体育の授業でも体力づくりに工夫された授業が進められているが、毎日行われている部活動が大きく貢献している。その部活動では、スポーツアスリートを目指す生徒も大いに頑張ってもらいたい。また、部活動を通して、仲間づくりや自分の健康増進や体力向上を目指す生徒も汗を流し、有意義な中学校生活を満喫してもらいたい。

食に関する取組が、各学校で盛んに実施されている。アレルギー疾患に関する職員研修や、栄養教諭が学校に出向いての学級活動で食についての指導を行うなど、望まし食習慣の定着が図れている。

- ・ニュージェネレーションプラン（新しい時代に対応した教育の推進）では、英語活動・外国語活動において、各学校で工夫された取組がなされている。ALTと担任の打合せを重要視している学校や教師の指導方法等の校内研修の推進、ALTを各学級の朝の会や給食を一緒に食べ、多くの機会にふれあいをさせ、気軽に英語であいさつや会話できるように工夫している学校が多く見られる。授業だけでなくALTを積極的に活用し、「ALTと遊ぼう」「ALTと話そう」には多くの参加者があり、関心の高さが伺われる。さらに25年度は、中学生を対象に「English in Action」を毎月第3土曜日に開催して英会話を楽しんでいる。また、アンケートからは、「英語活動は楽しいか」の質問に94%、「英語で話せるようにしたいか」の質問では91%の児童の回答があり、高い関心の状況と確認した。これも、守谷市では、平成13年度から各小学校にALTを配置しており、「話せる英語」の取組の成果だと評価する。小学校に英語教育が導入されて間もないが、英語教育指導のための職員の研修を充実させ、ますます英語が好きになり英会話ができる児童・生徒の育成を図ってほしい。

情報教育の推進とコンピュータ活用でも、各学校で工夫された授業が展開されている。電子黒板の効果的活用を図る授業や、プレゼンテーションソフトを活用して「表現する・伝える」力を育てる指導の工夫など、多くの研修を重ねながら進められている。中学生は、ICT機器を使った授業は多くの生徒が好み、積極的に取り組んでいる。多くの教科で利用し、ある学校のアンケートでは、「意欲的に取り組んだ」の回

答が92.8%と高い関心を示している。情報モラル教育に外部講師を招いて、携帯電話の利用等について保護者・生徒対象の講演会を実施して、モラル向上に努めている。しかし、子どものトラブルはネットや携帯電話からの発生が多く、いじめ問題の防止にもモラル教育を高める必要がある。

取組を学校・学級だよりやホームページで提供し、学校評価のアンケート等で積極的に保護者や地域の方々に意見を頂く機会を多くつくり、学校運営の参考としている。また、地域と連携した行事の開催や外部からの講師を招聘して、いろいろなことに地域や外部の力をより効果的に利用して、児童や生徒に体感的に体験させようとしている。

今年度は、幼小中高一貫教育「きらめきプロジェクト」が立ち上げられたことである。各市町村でも小中一貫教育は進められているが、市全体でまとまった推進はすばらしい取組である。中学校区でいろいろなアイデアを出して、各学校や地区の状況にあった事業が進められている。教師の交流授業や小学生と中学生の交流行事が生まれ、中学校に行っても安心して楽しい生活が送れることで、「中一ギャップ」の解消になる。

「学びのプラン」、生活・学習目標とスキルを9年間の発達段階で分かりやすく表してある。「家庭学習のてびき」も小学校、中学校ごとに作成されて、子どもはもとより、保護者にも大いに参考となる資料である。

今後も、作成されたパンフレットを更に利用して学力向上に努力してもらいたい。もう既に始まっていた外国語教育と情報教育の連携を、9年間の発達段階に応じた「守谷市小中一貫外国語教育指導計画」、「守谷市小中一貫情報教育指導計画」として作成した。守谷市で目指すものが明確で、児童生徒はより良い目標をもった取組ができる。

3 給食センター事業

食育推進基本計画が目指すところの、「学校給食に顔が見える、話ができる『生きた教材』として活用すること」のねらいから、多様な取組が実施されている。各学校の取組には、栄養教諭を招聘して学級活動時間や給食の時間を利用して、食習慣の重要性を指導している。多くの学校では、「早寝・早起き・朝ごはん」をスローガンにして、朝食摂取の調査等を実施して食習慣を定着させている。また、給食センターの活動内容の理解を図るために保護者に見学してもらい、望ましい食の教育の理解が図られている。保護者の給食について関心度は高く、子どもが毎日食べている給食がどのようにして作られ、どのような給食の時間かについての関心は高い。保護者が試食したいと思っている方も多く、このような機会があると、更に給食や食の教育が充実していくと思われる。

最近では、食物アレルギーを持つ児童生徒が増える傾向にある。その対応で、保護者に献立明細(成分表)を配布して別メニューの50人分を提供している。アレルギーを持つ児童生徒はますます増えていくと予想され、大変な仕事が増えるが、対応食ができるだけ可能な状況になり、安心でおいしい、楽しい給食の時間になるとよい。

安心・安全の学校給食の提供では、調理ドライ運用を徹底し、手洗いの徹底、用具の消毒等食中毒防止に最善の注意を払って推進されている。給食センターは、昭和59年に建設され30年近く使用されている。施設や設備の老朽化で故障等も頻繁で、その対

応も大変だと察する。突然の故障で、給食の休止も危惧される。安定した給食と、安心・安全で児童生徒が給食の時間を楽しみに待っているような給食にするために、平成26・27年で計画的に改修が進められようとしていることは、高く評価できる。

4 生涯学習・社会教育事業

(1) 豊かな生活を目指した学習機会の提供・充実と人材バンクの活用

守谷の自然について、市民に理解を深めてもらう目的で、春と秋に2回実施され、延べ87人の参加があった。守谷市は新興都市として発展した町で、守谷の自然の良さをまだ知らない市民も多いと推測する。守谷の自然の良さを、大いに市民に知ってもらうすばらしい機会である。

公民館講座・教室事業は、中央公民館をはじめ5つの公民館で172回の講座が開催されている。近年はシニア時代に入り、地域の公民館等の施設を利用したシニアの活動は頻繁に行われるようになってきている。平成24年度から指定管理者を導入して、多彩な講座を民間の専門性の高い中で運営されていることは、市民や地域の方にとって生涯に学習する機会があり、幸せなことである。高齢者が増えていく時代になり、生きがいをもって過ごしてもらいたい。

(2) 学校、家庭、地域社会の連携による教育の推進

近年のスポーツの普及には、目を見張るものがある。スポーツの種類や親しむ人の増加で施設が追いつかなく、活動場所を確保するのに困難を期することの声を聞くこともある。学校体育施設開放事業として、小中学校の施設を開放し、126団体、2,255人が登録され、常時スポーツに取り組み健康や体力向上のために活動している。スポーツ愛好家としては、有り難いことである。更なる事業として発展してもらいたい。

中学生の富士登山は、自然に親しみ、厳しさに挑戦する山登りであり、仲間意識の向上と強固な精神力を作る良い機会である。122人の参加者があり、思い出に残る体験ができた。今回の木曾御嶽山の噴火は、57人の犠牲者と6人の不明者を出した残念な事故でした。富士登山には多くの愛好家が登山しているが、山登りには今一度危機管理を再確認することが必要である。

(3) 学習活動・芸術鑑賞の場の提供と公民館の推進

芸術祭の開催、コンサート等の大規模支援制度、夕べのコンサート、守谷市美術作家展、もりや夢の舞と響、公民館まつりなど、芸術文化活動成果発表の場を設け、参加者の学習意欲向上、来場者の学習機会参加促進を図ることができた。

(4) 健康づくりの推進とスポーツ活動の充実

近年におけるスポーツの普及は目を見張るものがあり、青少年からシニアの時代に至るまでスポーツを通して、健康で充実した生活を送りたいと思う人々は年々益々増加している。ジュニアでは、社会体育やスポーツ少年団等で多種目に及んで活動している様子も多く見られる。守谷市でも、ハンドボールや民間のスイミングクラブ等で活躍し、県大会・関東大会・全国大会で活躍している生徒が多い。学校と社会体育、民間のスポーツクラブ等が連携を図り青少年のスポーツ普及に力を入れている成果であ

る。42件延べ116人、1団体に奨励金を交付し功績を称えている。スポーツアスリートを目指す者にとっては、良い励みになる。しかし、この何年かは青少年の体力の低下が目立ち、その半面では、シニアの体力は伸展していると文部科学省の報告がある。青少年にもアスリートを目指す子どもと、家の中に閉じこもり外での運動を嫌う二極化が見られる。幼少のころから楽しい運動の機会をつくり、多くの子どもが生涯スポーツを通して楽しい人生を過ごせるとよい。

ジョギングやマラソン、ウォーキングを楽しむ人々は、年々増えている。守谷ハーフマラソンには6000人以上の参加があり、毎年楽しみにしている人が多くいる。この大会も、市外の方の参加者も多く盛大に行われる人気あるものとなった。運営については人数の制限もあるが、さらに盛大なものになるとよい。

(5) 郷土愛と文化財の保護・周知

市民に郷土の歴史や先人の残した文化財遺産を管理・保護して、市民に大いに周知を図ってもらいたい。

(6) 放課後子どもプランの充実と児童の安全・安心の確保

放課後子どもプラン事業では、児童クラブと放課後子ども教室事業を一体化し民間業者に委託したことで、専門性の高い指導員を確保し現場の対応が迅速にでき、子どもは伸び伸びとした家庭的な雰囲気ですごすことができる。

5 図書館事業

- ・ 市民の意向を反映した図書館運営では、市民の目線で図書館協議会を開催され、市民サービスが徹底されている。平成20年度から市民一人当たり500円を目安に図書資料費を確保し、幼児向けから高齢者向けまでの幅広い収集を行い、市民の期待に応えている。図書館行事では、子どもの読書まつりや図書館まつり、おはなしボランティア養成講座、おはなし会等多くの講座とたくさんの参加者で開催されている。その活動も市民との協働で、市民参加型のボランティアの積極的な活動は特筆すべきである。
- ・ 学校図書館活動推進事業では、図書検索サービスを充実させ学校間の図書の相互貸借の促進等を図り、市内の13校の蔵書の有効な活用を推進している。更に児童生徒・教師が利用しやすい環境づくりに努め、読書活動の推進を図ってもらいたい。

< 総括 >

教育委員会全体の評価について

守谷市の教育予算は、「人づくりのため」という思いがひしひしと伝わってくる。教育環境の整備には率先した取組が多方面で見られ、耐震工事の100%や古い校舎の改修やトイレの洋式化、通学路の整備、エアコンの整備など、子どもたちの教育現場を整えて集中できる学校環境にしていく姿勢が大いにある。「新しい時代をたくましく生きぬく人づくりを目指して」の目標達成のためには、環境整備が大きい基盤となって進められるのではないかと推測する。まだまだ不十分のところもあるが、年間計画で順次推進され先を見通している。守谷市は新興都市として発展していき、人口増加に伴って、環境も大

きく変化する可能性も秘めている。

各課各事業においては、目標達成に向けた施策が職員の皆さんで随時進行された結果が、多くの市民の声やアンケートで示されて概ね目標は達成されていると思う。特に、市の行政だけでなく市民とともに協働でという姿勢が印象的である。職員やボランティアで活躍された皆さんに感謝したい。

平成25年度から、「世界で輝く人づくり」をテーマにした守谷市保幼小中高一貫教育「きらめきプロジェクト」を立ち上げている。人づくりには、幼少から青少年までの長期の計画と指導者の連携が必須となってきた。市内全体の課題ととらえ、主題を共有し、全学校・全職員で推進する計画があり、「確かな学力、豊かな心、健やかな体をはぐくみ、将来の夢に向かって努力できる児童生徒の育成」の目標を達成してほしい。

この結果は、短期間での成果はなかなか求めにくいところがあるが、将来は世界に羽ばたく人材や、守谷はすばらしい故郷で郷土を愛する人材に育ってほしい。